

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3670200447
法人名	医療法人 真誠会
事業所名	グループホーム ほのぼの
所在地	徳島県鳴門市大津町矢倉字五ノ越32-1 (電話) 088-686-3113
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 3月 16日

【情報提供票より】(平成20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6月 27日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	12 人 常勤 11人, 非常勤 1人, 常勤換算 ユニット1 6人, ユニット2 5.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名
要介護3	7 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.3 歳	最低 75 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・原田内科
---------	-------

徳島県 グループホームほのぼの 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所周辺は畑や小さな用水が流れるのどかな環境である。事業所は木造2階建てL字型で、どの居室からも中庭が見える造りになっている。中庭には季節の野菜や色とりどりの花を植えガーデニングを楽しんだり、外気に触れて憩えるくつろぎの場にもなっている。室内の床面はフローリングで柔らかいぬくもりがあり、掃除も行き届き清潔感があふれている。居間兼台所は対面式キッチンで、料理をしながら会話を楽しんでいる。また、同法人の関連施設で、月2回の職員研修が行われ、共に学びあいサービスの質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題である権利・義務の明記については、重要事項説明書に独立した項目として記載されている。また、ホーム便りの定期的な発行についても改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員に評価項目の用紙を配布し、それぞれに記載してもらい自己評価に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月ごとに開催され、利用者家族、地区総代、民生委員、行政職員、地域包括支援センター職員、市介護相談員、他グループホーム職員、法人職員、事業所職員によって構成されている。内容は、事業所の見学や外部評価結果の報告、会議ごとの提案事項に対する取り組み等について討議されている。同じ区域の同法人のグループホームと合同開催している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱を設置している。また、面会時や家族会など、何でも言ってもらえる関係を築いている。意見などが出された場合は迅速に対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の老人会の会員になり、定例会に参加するなどして顔馴染みの関係を築いている。また、近くの保育園の運動会に参加したり、地元の秋祭りにも参加するなど交流が図られている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合い、これまでの内容を見直すなど地域の中で生活することを目指した事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新規採用職員には、理念の共有ができるよう十分な取り組みができています。また、玄関やホール等に掲示し、日々の支援に活かせるよう意識付けを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の老人会の会員になり、定例会に参加して顔馴染みの関係を築いている。また、近くの保育園の運動会に参加したり、地元の秋祭りにも参加するなど交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に評価項目の用紙を配布し、それぞれに記載してもらい自己評価に取り組んでいる。また、評価の意義を理解し、外部評価結果の課題改善に積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催され、利用者家族、地区総代、民生委員、行政職員、地域包括支援センター職員、市介護相談員、他グループホーム職員、法人職員、事業所職員によって構成されている。内容は、事業所の見学や外部評価結果の報告、会議ごとの提案事項に対する取り組み等について討議されている。同じ区域にある同法人のグループホームと合同開催している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員事業を受け入れており、月2回の来訪時に、利用者の相談に乗ってもらったり、現場を見学してもらったりしている。また、市が主催する介護相談員報告会へ参加し、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回利用者毎にその月の生活の様子を写真に撮り、エピソードも含めて家族に送っている。金銭管理の記録についても毎月報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、面会時や家族会など、何でも言える関係を築いている。意見などが出された場合は迅速に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどなく馴染みの職員による支援が行われるよう配慮している。退職した場合は、十分説明を行う等、他の職員によるフォローがされている。ただ、離職があった場合、家族への連絡は十分行われていない。	○	職員の離職等があった場合は便り等で報告するなど、家族に対して連絡する仕組みづくりが期待される。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画に基づき、月2回、定期的に職員研修を実施している。日頃の取り組み内容を発表したり、他部署の内容を聞いたりしている。また、外部研修も交代で参加し、内容が他の職員にも共有できるよう、報告書を作成し、閲覧されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の相互評価事業に参加し、他の3事業所と相互訪問などを行っている。見学や意見交換等によってお互いに学び合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や、日中の通いを試してもらったりしてホームの雰囲気や職員、他の利用者と徐々に馴染みながらホームでの生活が送れるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや掃除、裁縫、畑の手入れ、ピアノ、習字など利用者一人ひとりが得意分野で力を発揮してもらえよう支援し、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の言葉や表情などから、思いや希望を把握している。把握した内容は個別の記録に残し、全員で共有できるよう勤務に入る前に確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	詳細なアセスメント(センター方式)を活用したり、家族にもカンファレンスに参加してもらおう等、利用者が自分らしく暮らせるよう支援する介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行い、利用者の状態が変化した場合は随時、関係者と話し合い現状に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり健康管理や通院等必要な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にそった医療機関に通院受診できるように支援している。またかかりつけ医と他の医療機関との連携によりセカンドオピニオンが得られるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合については、入居時に説明し、家族の思いなどを聞いている。職員と医師との間で方針の共有ができるようにしている。また対応指針や同意書も作成されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時には誓約書を提出してもらうなど、個人情報の漏洩防止に努めている。口腔ケアや排せつの誘導など、日常生活における一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮し、さりげない言葉かけや穏やかな態度で関わっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の散歩や買い物などの外出の際には、本人の希望を聞き対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑での野菜収穫や食材の買い物、下ごしらえ、盛り付けなど、一人ひとりの力を活かしながら参加してもらっている。また、利用者と職員は同じテーブルにつき楽しみながら一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう準備しており、時間帯も利用者の希望によって対応している。入浴を拒む方にも週3回は入浴されるよう言葉かけなどを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑での作業や家事の分担など、一人ひとりの得意とする事で、力を発揮してもらっている。また、ピアノや習字等、趣味を活かした楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1周すると20～30分かかかる馴染みの散歩コースがあり、天候さえ良ければ毎日出かけるようにしている。また食材購入にも毎日一緒に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけていない。利用者が外出しそうな様子を察知したら一緒に出るようにしている。万一、一人で出かけてしまった場合のことも考え、対応マニュアルを作成して事故が起きないように配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いによる訓練は年1回実施し、消火器訓練は年2回実施している。避難訓練は2ヶ月に1回実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士から定期的に栄養バランスや食事内容のアドバイスを受けている。食事量や水分摂取量については、チェック表に記入し不足しないよう職員間で情報共有し対応が遅れないよう注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の靴箱の上に桜の盆栽が置かれ、ピンクの花が咲き、一足早い春の訪れを表出している。また共用空間の壁面には行事の写真を貼ったり、観葉植物を置くなど居心地よい空間づくりを工夫している。トイレや風呂は間違わないように絵を貼ってわかりやすい表示を工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドと丸テーブル・椅子2脚が備え付けられ、それ以外に自分の使い慣れた机やピアノ、手作り作品や習字を飾ったり、家族との写真を貼ったりして、それぞれに自分らしい部屋づくりをしている。		